

冬に流行するウイルス性腸炎について

毎年冬場になると流行する病気としてインフルエンザウイルス感染症がありますが、同時にウイルス性腸炎の流行にも注意が必要です。

原因ウイルスとしては、やはりノロウイルスが代表的ですが、小児に多いロタウイルスなど原因ウイルスは様々です。

患者さんの訴える症状としては胃痛（実際は胃腸の痛みです）、吐き気、下痢等の胃腸症状の他に、高熱や頭痛・関節痛などウイルス性感染症に特有な症状が強く出ることもあり、インフルエンザによる症状との鑑別が必要なケースも多くあります。

病態としては、原因ウイルスの種類に関係なく、ウイルスによって胃腸の粘膜障害がおこり、胃腸がむくんで機能しなくなった状態と想像して頂けたらよいかと思えます。したがってぐったりしている胃腸を休ませることが有効で、出来るだけ食事を控え、脱水にならないよう水分をこまめに補給して、また低血糖予防や病気と闘うエネルギー補給のために、飴をなめたり、ゼリー等で糖分を補給するといったことも重要です。

ただし患者様によっては糖尿病などで内服薬を飲んだり、インスリン注射を打たれている方もいらっしゃり、この際はむやみな禁食をすると、低血糖発作を起こして危険な状態を起こす誘因になることもありますので、持病をお持ちの方は、とにかく病初期にかかりつけ医にご相談される必要があります。さらに小児や高齢者は下痢や嘔吐で簡単に脱水症状を起こしやすく、下痢嘔吐の状態によっては、早期の点滴加療が必要な場合もありますので、早めに医療機関を受診されることをお勧めします。

最後に感染経路についてですが、こちらは患者さんからの分泌物による接触感染・飛沫感染で、お子様の嘔吐物・下痢の付着物を処理したご家族が感染するケースも多くみられ、こまめな手洗い・うがいが唯一の予防方法と言ってもよいかと思われます。



多摩東部地域産業保健センター

181-0014東京都三鷹市野崎1-7-23 三鷹市医師会館内

電話番号:0422-47-2155

FAX 番号:0422-48-0982

電子メール: sanpo@mitaka.tokyo.med.or.jp